

第13回世界湖沼会議 開会式 嘉田知事あいさつ（日本語版）

日時：平成21年11月2日（月）

開会式 9：00～10：20

場所：中華人民共和国・武漢市

武漢国際会議展示センター

祝辞

皆様、おはようございます。

日本・滋賀県知事の嘉田由紀子です。

第13回世界湖沼会議にお招きいただくという名誉をいただき、ありがとうございます。

中国環境科学学会、中国環境科学院、中国武漢市、および財団法人国際湖沼環境委員会の共催により、ここ中国・武漢の地で、第13回世界湖沼会議がこのように盛大に開催されたことに、心よりお慶び申し上げますとともに、関係者の皆様の御尽力に深く感謝申し上げます。

また、世界各国で湖沼の環境保全に取り組まれている皆様とともに、この場に立てることを大変光栄に思います。

世界湖沼会議の成り立ち

まず始めに、世界湖沼会議の成り立ちについてお話しいたします。

滋賀県は、日本で最大の湖である琵琶湖を擁しています。琵琶湖は400万年もの歴史もつ世界でも珍しい「古代湖」の一つであり、固有種豊かな生態系の宝庫です。その固有種を利用して独自の淡水漁業文化が生まれ、育まれてきました。また、貴重な淡水資源として大阪、神戸、京都を含む近畿1400万人の飲料水や工業用水、農業用水として利用されるなど、私たちの生活と社会経済活動に密接に関わっており、多様な恵みを与えています。

第1回目の世界湖沼会議は、25年前の1984年に滋賀県の提唱により、琵琶湖のほとり大津市で開催されました。

その背景を振り返ってみると、1960年代半ばの高度経済成長期を迎え、工業用水や都市用水の水源としての琵琶湖の役割が大きくなる一方で、富栄養化等により水質が悪化し始め、1970年代に深刻な状況になりました。私たち琵琶湖に関わる者全てが、その問題を乗り越えようと尽力してきました。この私たち

の経験を世界に発信し、湖沼環境問題の解決に役立てようと、科学者、行政、市民、住民などの枠を越えて話し合うため、世界湖沼会議が開催されたのです。

第1回世界湖沼会議の成功を受け、世界各地でほぼ2年に一度開催されてきました。中国では、1990年に杭州市で第4回世界湖沼会議が開催されたのに続き、2回目となる世界湖沼会議が盛大に開催される運びとなったことを、大変嬉しく思います。

湖沼環境問題の解決に向けての提言

次に、湖沼環境問題の解決に向けて提言いたします。

私は、知事になる前は環境社会学者として、琵琶湖のみならず中国・太湖を含む世界各地をフィールドとし、水と人との関わりについて研究してきました。琵琶湖にはすばらしい価値があると感じ、琵琶湖の価値を守りたい、子どもや若者の未来を守りたいという一心から、3年前に滋賀県知事へ立候補したのです。

これまで世界各地を歩きながら、また、琵琶湖にかかわりながら、水環境問題の課題の解決に向けて、3つの視点があるのではないかと考えに至りました。

まず1つ目の視点は、自然科学的な視点です。化学や物理学をベースとし、物質やエネルギーの循環に関する情報や知識から導き出される方法です。また、応用実践のためには工学知識を必要とします。例えば、水質が悪化した場合には、下水道処理施設によって水を浄化することで、解決をはかります。

2つ目の視点は、生態学的な視点です。生態学や生物学などの知識をベースに、生物や特有の生態系を保全し、そもそもの自然力、生態系を最大限に発揮させるという方法です。

最後の3つ目の視点は、私の専門分野である人文社会学的視点です。その地域に暮らす人々の生活知や伝統文化、生活規範や社会組織を基にして、生活システムの中でのよりよい人と環境との関わりを構築する方法です。水に汚染物を出したり、ごみを出したりしているのは、私たち人間です。水環境の問題を根本的に解決するには、水と人、自然、文化との関わりを改めて考え直し、再生することが必要です。

私は、琵琶湖周辺の各地を歩きながら、ちょっと昔、50年ぐらい前の話を徹底して聞き書きをして、人びとの暮らしと水とのかかわりを研究してきました。

多くの方が、子供の頃に湖で遊んだこと、湖の水を飲んだり、洗濯したり、お風呂に使ったりしたことなど、湖への愛着を生き活きと語ってくださいました。そこで気づいたことは、人々がこだわりをもっているのは、水質そのもの以上に、感情的、ときには精神的な水とのつながりだということです。

今日の日本では、蛇口からの水を利用し、使った後は下水処理場を経て川、湖へ流れていくため、日常生活で使う水が川や湖から遠く離れたものになってしまい、川や湖への関心が薄れてしまっています。

中国には「飲水思源」という言葉があると伺っています。この言葉は、暮らしと水の関わりを常に意識し、私たちが使う水の源に思いをはせることを忘れてはならないことを教えてくれます。

これからの人々の幸せと自然環境の保全には、先端技術や社会基盤の整備による政策だけでなく、毎日の暮らしの中で使っている水とのかかわりを再生し、私たちの暮らしと感情的、精神的に近い存在とすることが必要ではないかと考えています。

世界湖沼会議の意義

最後に、世界湖沼会議の意義についてお話しします。

現在の私たちの生活は、社会経済的に、そして環境面でも世界レベルで密接に関係しています。私たちにとってだけでなく、地球上の全ての生物にとって、現在、そして未来において、貴重でかけがえのない世界の湖沼の持続可能な利用を進めていくために、私たちは、知識や経験を最大限活用し、地球規模で協働を行わなければならないと思います。

ただし、地球全体に思いをめぐらすことは容易ではありません。私は、一人ひとりの各地域での取組をつなげ、広げていくことによって、地球温暖化問題を含む地球規模の問題も解決に向かうと考えています。今ここには、世界各地から、市民や NGO の方々、科学者、行政担当官が集まっています。この会議で皆様が世界の湖沼についての意見を交わし、交流を深める有意義な機会となることを期待しています。

今回の世界湖沼会議の成功を祈念するとともに、その成果が、持続可能な湖沼管理と世界の水問題の解決に、大いに役立つことを願っています。

これで私からの挨拶を終わらせていただきます。
ご静聴ありがとうございました。